

GLOBAL NIGHT TIME RECOVERY PLAN

CHAPTER 2

ダンスフロアの未来

より柔軟で開放的なダンスフロアとイノベーティブなクラブ体験の構築

CONTENTS

- **INTRODUCTION - はじめに**
“GLOBAL NIGHTTIME RECOVERY PLAN” とはなにか？
- **CHALLENGES ON THE DANCEFLOOR-And Opportunities**
- ダンスフロアの挑戦と機会
英国夜間時間産業協会（NTIA）による調査
ビジネスモデルを維持する
プログラムの適応
CASE STUDY : LONDON
- **EXPERIMENTS IN VIRTUAL SPACE - 仮想空間での実験**
CASE STUDY : TURIN
- **ENVISIONING INCLUSIVE, EQUITABULE DANCEFLOOR**
- インクルーシブで公平なダンスフロアを実現するために
CASE STUDY : SEOUL
- **SUMMARY - まとめ**
- **参考文献**

“GLOBAL NIGHTTIME RECOVERY PLAN” とはなにか？

” **Global Nighttime Recovery Plan** ” は、ナイトタイムエコシステムに関わるすべての人に、安全で有意義な都市の復興計画の作成に向けた知識とツールを提供することを目的とした、世界各国の著者たちによる共同作成のガイドラインだ。

ナイトライフを考え直す機会

ナイトタイム産業は未曾有の危機に直面している。しかし、戦略的かつクリエイティブに考え、柔軟に対応することで、道を切り開くことはできるはずだ。GNRP は、世界各国の横断的なリーダーたちからの知見をもとに、都市が COVID-19 からより強く、以前よりも弾力的に立ち直ることをリードする。

” 私たちは、壊れてしまったシステムから脱却し、より持続可能なナイトカルチャーの基盤を創造するためのまれな機会に直面している。 ”

— CHAL RAVENS, DJ MAG

各章の内容は以下の通りである。

ベニューの再開から、ベニューの新しい姿をつくるためのガイダンス：

- 1. RESOLVE：COVID-19** を封じ込めるために都市が行なった施策の分析
- 2. RESILIENCE and RETURN**：混乱から回復するためのツールと戦略
- 3. REIMAGINATION and REFORM**：ニューノーマルを定義するためのシナリオ計画

” 正解 ” ではなく、” 挑戦段階 ”：すべての答えを持っている人はまだいない。このレポートでは、世界各国が現在進行形で行っている挑戦のケーススタディを取り扱っている。

” これまでのやり方 ” の見直し：パンデミック前のナイトライフは元々ギリギリのところで活動していた。**COVID-19** が収束したとき、どのようにしてより良いノーマルを再定義することができるのだろうか。

万能な解決策は存在しない：特定の政治的・文化的な文脈で機能しているものが、すべての文脈で機能するとは限らない。これらのモデルは、より公平で包括的なナイトライフを実現するために、都市が生まれ変わり、文脈を再構築するための出発点にすぎない。

進捗状況を測定するための提案：ナイトライフにおける進歩と成功を捉えるためには、定性的なストーリーと定量的なデータの両方が不可欠だ。

リスクを減らすマインドセット：人々は必ず集まりたくなるものだ。その衝動を規制するのではなく、人々が安全に集まれるようにこのガイドラインは、常に地域の公衆衛生ガイドラインと照らし合わせながら使用されるべきである。

Global Nighttime Recovery Plan があなたの街でお役に立てることを願っている。

お問い合わせ・アイデアの募集：hello@vibe-lab.org / nighttime.org

心を込めて。

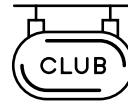
The Global Nighttime Recovery Plan 制作委員会

“GLOBAL NIGHTTIME RECOVERY PLAN” とはなにか？

GLOBAL
NIGHTTIME
RECOVERY
PLAN屋外空間のナイトライフ
と COVID-19

屋外空間と音の管理

ダンスフロアの未来

より安全なベニユーの再開と
会場運営24 時間都市への
イノベーション24 時間都市における
会場・交通・公共空間の再考

夜間統治能力の構築

ナイトメイヤーをはじめとする
夜間統治機関の構築持続可能な
ナイトライフシーンクリエイティブ産業のための
金融支援モデル持続可能な
ナイトライフシーン II

独立事業者のための財政支援

実践しながら学ぶ

再開・復興にむけたデータ収集と
ナイトタイムのインパクト測定最新章のチェックは、<http://nighttime.org/recoveryplan> にて。

The Future of Dancefloors：ダンスフロアの未来

As clubs reopen, what can we expect?

クラブが再開した時、何を期待するのか？

COVID-19 の感染拡大により、多くの都市では、日中における公共空間の利用が再検討されているが、特に北半球の都市においては、冬に向けて安全に屋内空間を利用するためのイノベーションが求められている。

もともと、クラブでの活動は過去数十年間の間にすでに不安定で複雑な状況に陥っていた。財政的な課題やジェントリフィケーション（都市の富裕化現象）、社会的文化的な負のレッテルや、制度的なサポートの欠如、行政機関との協議の難しさなどにより、多くのクラブは不安定な状況に置かれ、閉店の危機に直面していた。

Association of Licensed Multiple Retailers (ALMR) の 2015 年の調査によると、英国では 2005 年から 2015 年の 10 年間だけで、1400 以上のクラブが閉業に追い込まれた。また、社会的弱者・マイノリティのコミュニティとなっているクラブは、このような社会的な圧力に対してより一層脆弱であることが多いということが分かった。

COVID-19 による危機は、この傾向を悪化させた。多くの都市において、クラブは数ヶ月間は無収入の状態が続いた後、閉鎖に追い込まれており、経営を持続するための画期的な方法を見つけられていない。

この章では、新しいビジネスモデルのためのフレームワーク、ベニユーや集団における包括的な評価など、安全で実現可能なダンスフロアの再開に向けた方策やツールを提案している。これまで以上に現状に疑問を持ち再考することが、この状況を打破し、ダンスフロアの未来を築く手助けとなるだろう。

ダンスフロアの挑戦と機会

COVID-19 の感染拡大により、世界中の音楽会場やクラブは突然の閉鎖を余儀なくされた。ロックダウン、第二波、そして再開のフェーズにおいて設けられた新たな制限は、会場のマネージャー、アーティスト、スタッフに、かつてないほどのストレスを与えた。

クラブやオーガナイザーは、ライブストリーミングやクラウドファンディング・キャンペーン、補完的なサービスを戦略的に或いは実験的に活用しており、現代社会におけるナイトベニューの重要性についての認識を高めようとしている。しかし、政府からの明確な支援や十分に検証された運営モデルがなければ、事業者の抱えるリスクや課題は依然として残り続ける。

ベルリンクラブコミッションが指摘したように、現段階でダンスフロアを再開すべきではない理由は多く存在する。ダンスフロアは、まず安全性、経済的リスク、人々の体験の3つの観点から、再開にかかるコストとメリットをすべて把握することが重要だ。革新的な解決策を試し、現状を打破し、新しいビジネスモデルを見つけるためには、活動の多様化が鍵となる。

この章では、ビジネスモデル、来場者と労働者の安全性、再開計画の視点から、物理的空間とバーチャル空間の両方でナイトライフの機会と課題を探る。

"7月4日（土）、イギリスではバーやパブ、レストランが再開した。

多くのバーやパブ、レストランは座ることが前提とされ、

ダンスや音楽が規制された空間に生まれ変わった。

赤字が続き 9月以降は廃業してしまう飲食店が多数存在すること、

英国中で違法なレイヴが起こっていることなどの問題を解決しなければならない。"

— MICHAEL KILL, NIGHT TIME INDUSTRIES ASSOCIATION

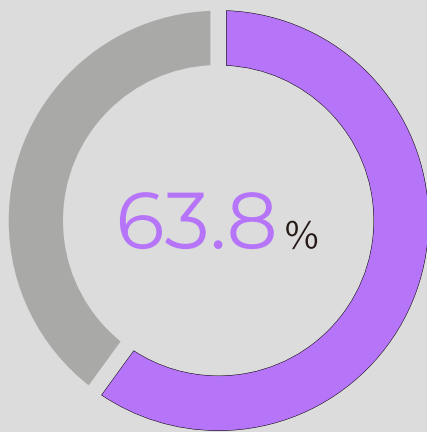


ダンスフロアの挑戦と機会：英国夜間時間産業協会（NTIA）による調査

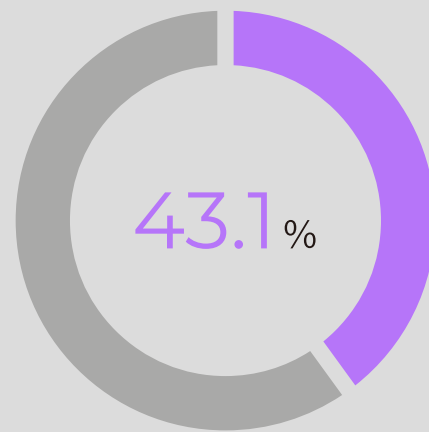
パンデミックによって地域がどのような打撃を受けたかを可視化するためのデータ収集は極めて重要だ。

ナイトタイム産業協会（NTIA）が、フィオナ・ミーシャム教授（リバプール大学、ザ・ループ）とマリア・ミーシャム教授（ザ・ループ、NTIA）と共同で、2020年4月ピーク時のロックダウン中に実施した英国のナイトライフ・ビジネスのオンライン調査は、事業者が直面している問題の大きさを示している。

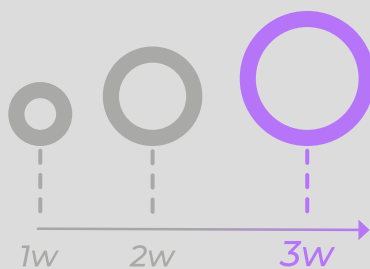
200 以上のナイトライフビジネスに対する調査結果



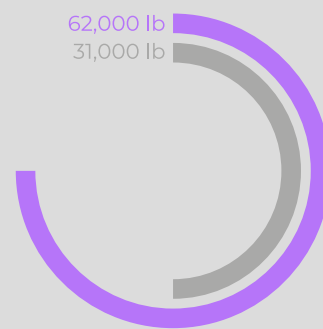
63.8%の事業者が、ソーシャルディスタンスの距離を確保して事業を再開することは財政的に不可能であると感じている。また、彼らによるとソーシャルディスタンスを確保して運営する場合、平均43%のキャパシティでしか営業できないと見積もっている。



43.1%の事業者が、事業活動を再開するためにはソーシャルディスタンスのガイドラインを解除する必要があると感じている。



再開の準備には平均3週間以上のリードタイムが必要と見積もられている。



ロックダウン後に活動を再開するために必要なコストは平均31,000ポンド、ナイトクラブの場合は62,000ポンドと見積もっている。

また、回答者の45%が「3ヶ月以上生き残れない」と回答し、75%が現状を打破するための引当金を持っていないと回答している。

ダンスフロアの挑戦と機会：ビジネスモデルを維持する

コロナ禍におけるクラブ運営の懸念と機会

キャパシティの制限、売上の減少、営業時間の短縮、そして長時間踊ることができないということは、多くのベニューにおいて既存のビジネスモデルが機能しないことを意味した。

営業を再開した地域でも、多くのクラブが「第二波」の脅威にさらされて閉店しており、中期的には代替的なアプローチをとる必要がある。

いくつかの鍵となる視点

キャパシティの制限



どうしたら、混雑したベニューで得られたような親近感と充実した経験を、収容人数を制限した少人数のイベントで提供することが可能か。

売上の減少



幅広い年齢層をターゲットする際、どのような新しいことができるか？さらに、クラブの営業時間短縮に伴い発生する「短時間の大量飲酒」をどのように管理できるか。

会場の安全性



最初にベニューに戻ってくる可能性が高いのはどういった層なのか。安全性が高く安心して楽しめる空間をどのようにつくりだせるのか。

ダンスの禁止



既存のスペースを使い分けや、活動の多様化、創造的な提供を追及できるか。（例：着席型コンサート、ドライブインショー、ソーシャルディスタンスをとった野外コンサート・ダンスフロアなど）また、どのようなコミュニティ・パートナーシップが実現可能か。

" 日本では、政府は音楽・エンタテインメント産業に対して様々な資金面での支援を行ってきた。危機発生後すぐに、クラウドファンディングなどのフリーランスのミュージシャンや草の根でのライブパフォーマンスを支援するプラットフォームが立ち上がった。また、多くのアーティストはオンラインでパフォーマンスを配信し、少額の資金を集めるようになった。しかし、これらすべて、音楽・エンタテインメント業界のプレイヤーたちが生き延びるためには十分ではない。

アーティスト、イベント、プロモーターを含む業界を維持するために、2つの救済策が重要だ。1つは、過度にソーシャルディスタンスを置き、営業時間の短縮を迫る現在の厳格な運営ガイドラインを緩和すること。もう1つは、DJが音楽のマスターライセンスを取得できるような業界全体の仕組みを確立し、法的な問題なく、オンラインパフォーマンスを収益化できるようにすることだ。"

ダンスフロアの挑戦と機会：プログラムの適応

ロックダウンと再開の過程における挑戦の一つには、ベニユーが、収入を生み出し、認知度を高め、地域の愛着を育むような活動を創造することにある。

キャパシティの縮小、移動の制限、無免許で行われる集会や私的なパーティの開催が、多くの国で増加し始めている。そのような中で、新たなフォーマットや空間の活用方法を考え出すことが、クラブ活動の提供者全体の課題となっている。

パンデミック下における懸念と機会

競争

大手ブランドやチェーン店は新たな要件の下においても運営する余裕があるかもしれないが、小規模な会場や独立した店舗は収容人数を減らした営業ができない可能性が高い。

地方自治体は、草の根のコミュニティや事業者に対して、減額あるいは無償で公共空間を提供することができるか。

アーティストの移動

国際的なアーティストラインナップを期待する観客に対しては、オンラインを駆使したマーケティングが必要となる一方で、このような状況においては、若手や地域のアーティスト、スタッフ、そして市民に重点を置くことができる今こそ、地元アーティストのコミュニティを強化するために、環境にも配慮した方法で、KM0（ゼロキロメートル移動）レジデンスや、地域内交流、メンターシッププログラム、そしてこれらのミッションを観客と共有することを実行するチャンスなのではないか。

新たなフォーマットの創出

この危機の中で、バーチャル・クラブ、VR 体験、ハイブリッド・ライブ・バーチャル・ショーなど補完的なサービスやマーケティングが登場している。ベニユーは、どのようにして最小限のリスクで、新しく実験的なフォーマットに取り組むことが可能か。そして、どのように財政的に持続可能な状態を保ちながら実験を行うことができるだろうか。

ダンスフロアの挑戦と機会：プログラムの適応

小さくてスマートな実験

この激動の時代には、柔軟性と継続的な学習が不可欠である。大きくはじめるのではなく、段階的なアプローチをとることで、ベニューはさまざまな学習を経て、感染者数が増減した際に柔軟性を維持できるだろう。

屋外空間の効率的な活用



地方自治体が公共空間活用に関する規制を緩和し、合理的で迅速なプロセスを提供することで、屋外空間活用の幅が広がる。

(詳細は第1章を参照)

実験的なテストイベント



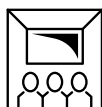
予約制や限られた観客のみを対象としたイベントの開催により、観客からのフィードバックを得て、成功するために必要なことや課題を抽出することができる。

短時間のイベント



着席型で控えめな演出のライブコンサートなどの開催により、衛生面の対策をテストし改善する。

ハイブリッド型イベント



少人数の観客を会場に集め、多数の観客に向けてはストリーミング配信を行う。

より長時間・長期間のイベントやクラブ活動



地域の状況や許可状況に応じて、より長時間・長期間のイベントやクラブナイトを実施。

ソリューションとイノベーション

ベニューによっては、一部のプログラムを変更している場所もあれば、完全にビジネスモデルを転換させ、新しいコラボレーションを開発している。次のページ以降、現在進行中の取り組み事例をいくつか紹介する。

ダンスフロアの挑戦と機会：プログラムの適応

VENEZUELAN DIASPORA にとって、#CASAECHEO のようなバーチャルパーティーは、著名な DJ と LOS AMIGOS INVISIBLES の元メンバーが主催する毎週のインスタグラムライブの集まりであり、世界中に住む友人や愛する人たちと交流するための重要な場所となっている。

この国が危機によって失った多くのつながりや伝統を取り戻すことはできないが、このパーティーは、私たちの音楽、私たちの人間性、そして私たちの本質を維持するために、ユニークなプラットフォームを創造している。

- ANDREINA SEIJAS

Bubble Raves: Large and Small

ヴァージン・マネー・ユニティ・アリーナ、ゴスフォース・パーク（英国）：

2020 年 8 月から感染防止対策としてソーシャルディスタンスを取った音楽コンサートを実施。通常 15,000 人のキャパシティであるところ 2,500 人の観客にて実施。

アリーナはクラブとは規模が大きく異なるかもしれないが、小さい会場においても適応可能なフィードバックが多く存在した。アーティストや観客からのコメントの中には、女性客から「より安全だと感じた」、障害を持つ観客から「イベントスペースのデザインによってより参加しやすくなった」、等のコメントがあった。



Thé Dansant（ベルギー）：

ベルギーでは「バブル・レイヴ」を試験的に実施した。これは、マスクをした常連客とスタッフのみが参加する昼間の屋外でのパーティーであり、家族間ではマスクなしのダンス（バブル）を実施し、VibeCare チームがサポートを行った。これらのコンセプトが屋内でも通用するかを見定めるためには、さらなる研究が必要である。

Paradise City Festival

パラダイス・シティ・フェスティバル（ベルギー）

このイベントでは、参加者はボートに乗ってパフォーマンスを鑑賞した。

これによりソーシャルディスタンスの確保を実現した。



バーチャルコラボレーション

Ampere club（ベルギー、アントワープ）

「Ampere on Air」と呼ばれる3週間のバーチャルプログラミングを行うハイブリッドモデルを提供し、Deliverooとの提携により、ドリンクや食べ物を参加者の自宅に提供する取り組みを実施した。

United We Stream（ベルリン／グローバル）

オンライン配信のクラブを家庭に届けた。地元のテレビ局やラジオ局などのネットワークとの提携、DJのライブストリーミング配信、クラウドファンディングキャンペーンなどを通じてクラブとそのインフラをサポートした。これにより、世界80都市以上においてクラブが置かれている状況に対する認知が高まり、クラブの自治性も高まった。

VILLAGE UNDERGROUND CYCLE PARK



ヴィレッジ・アンダーグラウンド（VU）は、イースト・ロンドンの中心部に位置する多目的イベントスペースだ。VU では、定期的に、コンサートやクラブナイト、演劇、ライブアート、ワークショップ、展示会などを開催している。COVID-19 の発生後、VU のチームはすぐに、収容人数の減少と予防策の導入を考えると、しばらくチケット制の文化施設としては運営できないことに気が付いた。予防措置を遵守するならば、プライベートな利用か企業によるイベントの開催だけが、金銭的に実施可能であると判断した。

“ロックダウンが緩和された時、NTIA とミュージック・ヴェニュー・トラストは、
現行の制限の下ではミュージック・ベニューは運営できないと表明した。
これらの制限により、民間企業は自分たちのイベントを開催するのに音楽ベニューを
使用することはできない、という誤解を生んだと思う。
実際にはそうではないにもかかわらず、少なくとも一部の事業者はこのように考えているだろう。”

— KATHARINE KHAN

ダンスフロアの挑戦と機会：CASE STUDY：LONDON

完全なロックダウンの期間中、VU はまず、すべての従業員が一時休業の制度を用いて財政的に保護されること、契約者の残高が問題なく決済されることを確認した。その後、VU のビジネスマネージャーであるキャサリン・カーンは、自社の運営を継続するために何ができるかを把握するため、迅速に経営の分析を実行した。

主な課題は、不確実性により計画の設計ができないこと、人々の行動の完全な変化、政府の政策指示やアジェンダの度重なる変更、そして金銭の流れがいつもとは異なることだった。

"COVID-19 状況の主な問題は、不確実性と政府の指示を待ち続けることだ。
迅速な計画設計のために、私たちはフルキャパシティのチケット付きイベントはおそらく
2021 年 2 月頃まで実現不可能であると仮定した。"

– KATHARINE KHAN

人々の行動と政府の政策

英国の政治的、経済的状況を、キャサリンは次のように観察した。

- ・ ジムやレジャーセンター、スイミングプールの閉鎖に伴い、多くの人々が外で運動するようになった。
- ・ 英国政府は、ウイルスの拡散を制限するために、可能な限り公共交通機関を避けるべきであると発表した。
- ・ ロンドンでは車の通行が禁止される道路が増え、渋滞料金の引き上げが実施された。
- ・ サイクリングは環境に優しく、汚染を減らし、伝染病にも安全で、車よりも安価であることから、正式に奨励されるようになってきている。

キャッシュフローはどこからきている？

もう一つの課題は、経済的資源がほとんどないことだ。VU は、問題解決にすぐれた優秀なチーム、アルコール免許、ロンドンの街の端にある立地など、自分たちが持っている資産について慎重に検討した。

ロンドン市の金融街に近いという VU の立地は、VU の常連客に対する影響はないが、毎日都市のオフィスに自転車で往復することになった人々にとっては貴重な場所であった。VU では、施設内に自転車置き場を設置し、その利用状況を調査することとした。

"「イベント用の自転車ラック」など、グーグルで検索していると、
ロンドン市長とロンドン交通の記事にその作り方が掲載されていることを発見した。
また、ありがたいことに、私たちの会場管理人のキーラン・ワラーは
サイクリングに情熱を持っていて、サイクルショップの運営とリスクを
最小限に抑えるための挑戦に興味を持っていた "

– KATHARINE KHAN

ダンスフロアの挑戦と機会：CASE STUDY：LONDON

VU はサイクルパークを立ち上げ、販売、マーケティング、運用スキルを持つスタッフ 4 人に運営を任せた。

まず、サイクリング業界での信頼性や評判の低下を避けるために、専門家とのパートナーシップを模索した。そこで、“Look Mum No Hands!” が最も有力な候補として挙げられた。彼らは、ハイエンドの独立した自転車店で、VU サイクルパークが目指す地域範囲でのサービスを提供し、週に 1 回 VU の敷地内でバイクのチューニングやサービスを提供してくれることとなった。

“今、音楽ベニューで働くプロフェッショナル達は、柔軟性、勇敢さ、問題解決力と自ら学ぶ姿勢を強めていかなければならない。
今それ以外に何ができるだろうか”

– KATHARINE KHAN



villageunderground An update on Village Underground's temporary closure and our new VU Cycle Park @vucyclepark:

It's been almost four months since we announced the temporary closure of our venue. Since mid-March our doors have been shut, our programming paused and our warehouse empty of parties, gigs and gatherings for the first time in almost 15 years.



Liked by boutani and 147 others

JULY 10

Add a comment...

Post

“我々は、安全性、実現可能性、より進化した顧客体験に焦点を当て、
ダンスフロアの再開のための議論を進めるべきである ”

– MICHAEL KILL, NIGHT TIME INDUSTRIES ASSOCIATION

ナイトタイムエコノミーの中心的な要素が、音楽ベニューやクラブで集まることや近い距離間での人と人の交流に依存していることから、コロナ禍において安全で価値のある体験を提供するのは、非常に困難だ。しかし一方で、挑戦しがいのあることだ。

ベニューにおける感染防止対策の実施にあたっては、様々な情報や How-to ガイドがある。

ニューヨーク（A Light in the Night）、香港（Black Sheep Restaurants）、ベルギー（Covid Event Risk Model）など、各国の取り組みについては Further Reading のページを参照。

コロナ安全対策においては、イベントにおける人々の交流をいくつかのカテゴリーに分けて考える必要がある。



来場者同士の交流



スタッフと来場者の交流



スタッフ間の交流



アーティスト、スタッフ、来場者の交流



来場者と周辺関係者・関連サービスとの交流
（タクシー運転手、公共交通機関、緊急医療スタッフ、近隣住民など）

イベント開催の準備をする上で重要な要素は、「安全性」と「リスクの認識」の2つとされているが、一方で、必要な感染防止対策を講じたイベントが、充実した体験を提供できるのかという視点も重要だ。ベニューやダンスフロアの社会的・文化的な価値は維持されるのか。感染防止対策を施した運営は実際に実現可能なものなのか。

ソーシャル・ディスタンス

＜肯定的な意見＞

- ・過密空間の減少に繋がる
- ・過密空間に起因する迷惑行為の減少
(スタッフへの嫌がらせ、ハラスメント等)

＜否定的な意見＞

- ・実施・管理が難しい
- ・近距離でのダンスができない
- ・特定のパフォーマンス・演出ができない

マスクの着用

＜肯定的な意見＞

- ・マスクは、「クールなもの」と捉える
- ・匿名性の確保が可能
- ・マスク着用を推進するキャンペーンを通じたコミュニケーションが可能

＜否定的な意見＞

- ・マスク着用に違和感がある、着用することは格好悪いと感じる
- ・マスクはコミュニケーションを制限する
- ・大音量の音楽が流れる空間ではスタッフやお客様、特に障害のあるお客様にマイナスの影響を与える

アプリによる追跡と事前登録

＜肯定的な意見＞

- ・陽性の検査結果が出た場合に連絡が可能
- ・プライバシー保護のためのトレースアプリの革新
(Further Reading の Closecontact を参照)

＜否定的な意見＞

- ・個人情報保護の懸念が偽名や偽情報登録につながる
- ・アプリをダウンロードする人が少ない

検温または PCR 検査

＜肯定的な意見＞

- ・入店前に症状の検出が可能
- ・英国の学校や介護施設では、90 分間のテストが導入されており、これら機能すればフェスティバルやナイトクラブの会場入り 90 分前にテストを行うことができる (参考文献を参照)

＜否定的な意見＞

- ・検査結果が偽陰性になる可能性がある
- ・無症状の場合は検出されないことがある
- ・体温の上昇は、他の病状によるものである可能性もある

Eventsure（ベルギー、アントワープ）は、ナイトライフ経験を持つオープンマインドな人々のチーム（VibeCare）を作るために、国際的なトレーニングプログラムを提供している。これは、観客をフレンドリーかつ適切な方法でコントロールし、ベニューの安全性を確保することを目的としている。イベントでの体験とは、イベント前、イベント中、イベント後における様々な要素（物理的・デジタルの両方）と、来場者との相互作用によって生み出される。VibeCareの戦略は、雰囲気コントロール、群集の管理、非言語コミュニケーションを組み合わせ、イベントの体験をはじめからおわりまで意図的にポジティブなものとするのだ。

VibeCareによる感染防止対策、1．開始前、2．来場時、3．イベント時、4．閉店時、5．退場後といった5つの段階に焦点を当てている。

"すべての段階において、私たちの市民を守るために何が必要か、イベントに参加するすべての人の安全を保証するために何が必要か、そしてこれらの安全対策を参加者にどう伝えれば良いのか。常に自問し続けることが大切だ。"

– ROBBE VAN BOGAERT, EVENTSURE

5つの段階における VibeCare の感染防止対策

1. 開始前

ベニュー入場前に行われるすべてのこと（チケット購入、列に並ぶこと）

考慮すべきこと：

イベントに対する期待感をデジタルでどのように醸成し、伝えることができるか

- ・（個人データの取り扱いを参加者に説明した上で）
ゲストの連絡先取得、検温、または PCR 検査（実施されている場合）を実施
- ・ 縮小されたキャパシティを維持するために、事前に参加者を把握する

2. 来場時

ゲストがどのようにして
ベニューに入ってくるのか

考慮すべきこと：

入場前の待機中の列で参加者が何をしているか

- ・ 床に印をつけるなど、ソーシャルディスタンスを確保する
- ・ 列に並んでいる際、ゲストがマスクを着用していることを確認する
- ・ 縮小されたキャパシティを維持するために、事前に参加者を把握する

3. イベント時

人はどのようにしてベニュー内を
動いているのか

考慮すべきこと：

参加者はどのようにベニューの中を移動するのか

トイレ、バー、廊下、階段、テラス、テーブル、クローク等の

特に狭くて小さいスペースで、どのようにソーシャルディスタンスを促進できるか

- ・ ソーシャルディスタンスの確保のためには
通常のオペレーションを変更する必要があるかもしれない
- ・ 狭いスペースでは、スタッフによる注意喚起で、
参加者にルールを思い出してもらい、混雑を回避する

4. 閉店時

ゲストの帰り支度の仕方

考慮すべきこと：

ゲストの帰り支度の仕方

- ・ 順番に退出する、複数の出口を設ける、一方通行を徹底する
終了後には再度消毒を実施する

5. 退場後

会場がスペース外でどのように
運営されているのか

- ・ 特にバーなどでは、営業時間の短縮により飲酒量が増えやすく、
参加者は通常時よりも酔っている可能性がある
- ・ 分かりやすい表示（デザインやメッセージ）の活用、
誘導スタッフの案内により、歩道に対流したり
パーティーをするのではなく、静かに会場を去ることを促す
- ・ 公共交通機関を利用する人には、
ソーシャルディスタンスを保つように注意する

ロックダウンや都市の閉鎖への対策として、バーチャル・イベントやバーチャル・クラブが、増えてきている。トロントを拠点とするクィアダンスパーティー「Club Quarantine」や、Chao Pardo の「#casaecheo」のように、コロナ禍でも最善を尽くすことにより、直接会うことのできないコミュニティを結びつけることが可能となる。しかし、バーチャルダンスフロアは誰が所有し、管理しているのだろうか。

" オンラインの世界における公平性と不公平性の問題を理解することが、オンライン・イベント、オンライン・クラブの新たな課題だといえる。オンライン上のアルゴリズムは、一部の人種・年齢層・性別に偏る可能性がある。そのため、安全で民主的で、コミュニティ主導の空間であり続けるために何ができるかを問うことが重要だ。 "

– ALESSIO KOLIOULIS, UNIVERSITY COLLEGE LONDON

メリット	デメリット
物理的なリスクの回避： コロナウィルスへの感染の他、火災、 物理的な嫌がらせ等に対してバーチャル空間は安全である。	デジタルヘルスリスク： ハッキングやハラスメントなど。 プライバシーの欠如： 一部の企業は規制されていない方法で 利用者のデータを収集するかもしれない
アーティストによるイノベーション： アーティストと観客は、新しい表現方法や テクノロジーを駆使して、新たなパフォーマンスと 交流のあり方を模索し、挑戦する。	表現の制限： アーティストや観客は、音楽や、パフォーマンス、 アートを創造したり体験したりすることに難しさを感じる 特に、デジタルツールにアクセスできない アーティストは表現を制限される可能性がある
幅広いオーディエンス： 高齢者、若者、障害者、地理的な場所に関係なく、 インターネットを介してより多くの観客が利用できる。	交流の制限： アーティストと観客との交流は オンライン上では限られる また、クリエイティブなプロセスは、 デジタルで「聴ける」ものに限定される
アクセスの民主化： 安定したインターネット接続があれば、 無料 / 安価なコンテンツにアクセスすることが可能となる。	アクセスの制限： アーティストやプロモーターは、レコーディングや 放送のために安定したインターネット接続が必要 そのための技術的・コスト的な障壁がある
イノベーション： クラブ業界におけるデジタルリテラシーと 革新性を高める機会となる。	包含性： インターネット上のスペースに、安全で 包含的なコミュニティを維持するためには、 どうすればいいのか
収益： クリック数から収益やパートナーシップの可能性がみえる	収益性： 現在のところ重長期的な収益は得られていない

特にアクセス数の多いプラットフォームは Facebook や Amazon といった企業が所有していることから、誰が最も利益を得るのかよく考える必要がある。

ALGO:RITM

algo:ritmi は、COVID-19 のロックダウンへの対策として生まれたバーチャル・クラブの草の根プロジェクトだ。イタリアで物理的なベニューが完全に閉鎖されている間に、文化的コンテンツとソーシャルインタラクションの機会を提供することを目的として実施された。このプロジェクトは、ピエモンテ地区から文化関係の助成を受けて 2019 年の年末にすでに始まったもので、もともとは、ライブパフォーマンス、アート展示会、ライブコーディングとエレクトロニックが相互連携する教育的イベントなどで構成される予定となっていた。しかし、ベニューがしばらく再開できないことが明らかになったとき、プロジェクトの生みの親である Karin Gavassa は、Enea Le Fons (XR Cybernaut、開発者兼 R&D エンジニア) と Edoardo Salviato とチームを組み、当初のコンセプトを完全にバーチャルな体験に変えることを決め、moz://a プラットフォーム上に uxr.zone というバーチャル空間を開設した。



バーチャル・クラブの Circle は、ロックダウン中の 2 ヶ月間、毎週月曜日に開催され、世界中から 60 人以上のアーティストが参加した。イベントへの参加者は、自身の PC から uxr.zone に匿名でログインし、アバターをカスタマイズしてバーチャル・クラブにアクセスする。

一度そこに入ると、アバターは他のユーザーや空間の仮想オブジェクトと交流することができる。コーディングの専門知識があれば、空間にオブジェクトを追加することができるが、知識がなくても、すでにあるものを使って飲み物を作ったり巨大なドーナツで遊んだりその他の遊び心のあるものを作ることができる。



"UXR には警備員はいない。何らかの規制をしなければならなかったのは、ユーザーが部屋に追加したオブジェクトが多すぎたときだけ。その時は何百ものハンバーガーや巨大なドーナツができてしまって、他のユーザーのルームへのアクセスができなくなったり、サーバーをクラッシュさせたりしていたわ "

— KARIN GAVASSA, ALGO:RITMI CREATOR

24 時間 365 日利用可能なスペース（いつでもアクセス可能）では、ライブ・コーディング・パフォーマンスによるパーマネント・コレクションを開催することができる。また、個別のプロジェクト展示会やショーケースが展開されている Dome もある。6 月には、UXR のワークショップと Dome のガイド付きツアーも開催された。

" 皆、自分のアバターで自分自身の存在を主張することに夢中だから、バーチャル・ダンスフロアで、"リアルな" モッシュピット（もみ合い）が起こるのです。トイレに並んだり、自分より背の高いアバターが前にいてパフォーマンスが見えないと文句を言ったりしていました。 "

— KARIN GAVASSA, ALGO:RITMI CREATOR

この取組の主な利点は：

- ・ 絶対的な民主主義が担保され、アクセスがしやすいこと。あらゆる形の嫌がらせや攻撃が存在しないこと
- ・ ワイルドな実験が可能
- ・ 現実の世界ではブッキング不可能な世界中のアーティストとのふれあいが可能
- ・ 世界中から集まった様々なコミュニティの人々との大規模なインタラクションが可能

今後数ヶ月の間に、Karin と彼女のチームは、物理的 / 仮想的なインタラクションの境界線を拡大する方法を検討する。例えば物理的なクラブに UXR を持ち込み、クラブの利用者が VR Oculus ゴーグルを使用できるようにしながら、アバター、現実の人々、アーティストの間で異なるレベルのインタラクションを促進する。



カルチャーを生み出す場と位置付けられてきたクラブ、フェスティバル、ダンスフロアといった「場」（ベニュー）は、文化的自己決定（Self-determination）、ソーシャル・インクルージョン、多様性、想像力、そして人々に安全を提供する空間としての役割を果たしてきた。つまり、クラブやダンスフロアは、これまで長い間にわたり、新しい芸術、技術、音楽、トレンドを生み出すインフラであり、また、個人や地域社会の健康と幸福（wellbeing）のための社会インフラだったのだ。

“隔離の強化によって、私達の心の健康、健康で幸福な生活、そして、その瞬間に物理的空間を共にしているかに関わらず他の人とのつながることができる能力、そうしたことに對する芸術や文化の価値の重要性が際立つことになった。”

— SOUND DIPLOMACY' S MUSIC CITIES RESILIENCE HANDBOOK

ダンスフロアの閉鎖は、都市の構造的な不平等という状況に拍車をかけた。2017年のユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの調査によると、ロンドンのLGBTQ+向けのナイトタイムのベニューは、住宅や財政危機に特に脆弱であると指摘している。中でもBAME（黒人、アジア人、少数民族）コミュニティにサービスを提供している店舗においての傾向は特に顕著であった。コロナ発生前から、こうしたベニューは次々に都市から姿を消しているのだ。

ベニューの閉鎖は客と労働者では異なる影響を与える。こうした「場」は社会的・創造的なインフラであるだけでなく、多くの人々にとって収入源でもある。この業界で働く最も脆弱な人々の生活を保護し、支援することは極めて重要であるとともに、閉鎖期間の対応ができれば、地域経済や文化だけでなく、世界の音楽・テクノロジー産業全体の格差問題をさらに悪化させることになる。

ダンスフロアを管理しているのは誰か？

管理・監視の問題は、場の閉鎖と密接に関連している。クラブは管理不能、安全ではない、社会にとって必要な活動ではない、という一般の人々や企業・団体による認識は、クラブに対する偏見を生み、結果として監視、警察による取締りなどの厳格化につながっている。今回のコロナに関連する公的な公衆衛生の関する指示においてもこうした状況が顕在化しさらに悪い方向に働いている。特にBAME（黒人、アジア人、少数民族）やLGBTQ+向けの場に関しては、それだけでなく、経済的安定性、社会的・文化的非難・制度的人種差別といった面においてすでに弱い立場に置かれているのにもかかわらず、こうした状況が顕著だ。

クラブを取り巻く世論を完全に变えることは困難ではあるものの、ナイトタイムの公式・非公式ネットワークを通じ、政府・自治体との連携によって誤った情報、非難、モラルパニック等へ対応するためのコミュニケーション戦略やアクションプランの取りまとめが不可欠であることがわかってきている。

また、クラブやダンスフロアと言った「場」は、独自の対策として、安全性を高めるための基本ルール開発、VibeCare等の機器や啓発チームの導入、コミュニティ主導で参加を促す戦略開発などによって、新たな管理体制や警察による取締りになる対策の確立を主導することも可能だ。こうした動きを見せることにより、世論のクラブに対するイメージにポジティブな影響を与え、周囲の人々とのエンゲージメント（繋がり）を強化し、サポートを促すことが可能になるのだ。

"日本のマスコミは「夜の街」が感染症の温床であることを繰り返し指摘したため、アルコール提供で深夜営業する音楽関連のベニューやバー、クラブなどへの世間の批判が高まっていた。クラブのオーナーや従業員、客は偏見の対象となり、ウイルスを蔓延させる社会的な悪役として非難されがちだが、彼らを責めることは結局、彼らを社会から孤立させ、感染経路を曖昧にし、感染を加速させることに繋がる。

新宿歌舞伎町は、ホステスクラブやホストクラブが密集している都内最大級のナイトライフの街だ。これらのクラブは感染リスクの高い温床として一般の人からも批判されているため、地下に潜り込み、適切な監視が行われないまま営業を続けてしまう可能性がある。

このエリアで数多くのホストクラブや飲食店を経営している手塚マキ氏は、そのような事態を避けるために、6月から地元行政との連携を開始した。区長と共同で区内の他のクラブ経営者を説得し、予防策を講じた。現在では、あるクラブで感染者を発見した場合、接触の度合いに関係なく、同じクラブの仲間全員がPCR検査を受けるようになった。これにより、歌舞伎町地区では感染者の早期発見が可能となり、クラスターの発生を回避できるようになった。

夜間の営業を完全に停止させずに感染拡大のリスクを抑えるためには、地元行政と地域社会の間でこのように連携するが特に重要だ。"

– TAKAHIRO SAITO, JAPAN NIGHTTIME ECONOMY ASSOCIATION

2020 年 4 月のイテウォンでのクラスター感染

ソウルのクラブは比較的歴史が浅く、文化的な場所とはみなされていないため、常に法的なグレーゾーンにあった。ほとんどのベニューは 2020 年 3 月以降、政府の支援がなく、今日まで閉鎖されている。ナイトクラブを代表する唯一の公式協会は存在するものの、ホステスによるサービスを提供するバーも含まれており、音楽系のクラブシーンを代表するものではない。

" 韓国では売春は合法ではないが、ホステスバーは合法であり、多くのお金が絡んでいるので、この協会はホステスバーとラスベガススタイルのボトル販売志向のナイトクラブの利益を保護することに終始している。その意味で、非常に古い体質の協会だ。 "

—JULIAN QUINTART

4 月末、1 人の男性がコロナ陽性反応となった。ソウル最大のクラブエリアである梨泰院（イテウォン）にある、多くの人が集まるゲイクラブで一夜を過ごしたことが分かったと、接触者の情報が公開され、多くの人々が本人の同意を得ずにゲイであることを公表されることになった。韓国では LGBTQ+ のコミュニティはあまり受け入れられておらず、LGBTQ+ への関わりやウイルス感染などが公表されてしまうと、個人への脅迫や偏見につながる危険性があるのだ。

韓国の人権活動家たちは、当日その場にいた客に対し、不必要に注目を浴びせたとしてメディアを非難し、広範なキャンペーンを展開した。その結果、政府は、感染の発見を妨げかねない差別への対応措置として、病院で匿名検査を受けられるようにすることを決定した。4 万人以上のナイトクラブ訪問者とその接触者が検査を受けた結果、感染者数は 246 人に止まり、全国的な爆発的感染を防ぐことができた。

しかし、この件がニュースになったことで、誰もが巻き込まれることを恐れて梨泰院を避けるようになった。音楽系のクラブが同エリアの他のバーやレストランと協力して、梨泰院のイメージを回復するために、T シャツを作って販売し、利益の一部を慈善団体に寄付することにした。900 枚あった T シャツはほぼ完売した。

COVID-19 のポジティブな側面としては、かつて競合していた3つの主要テクノ会場 -Volnost、Faust、Vurt- や KCCBA-Korea Club Culture Betterment Association- を巻き込んだ VFV イベントのように、新たな提携関係が生まれたことが挙げられる。

" 私たちは産業界のプレイヤーたちと協力して
「KCCBA- 韓国クラブ文化向上協会」を設立し、お互いをサポートすることにした。
現在、協会のボードメンバーには、FAUST、VURT、SOAP SEOUL、
HENZ、TRUNK、CHANNEL 1969 などの韓国の主要なクラブのオーナーが名を連ねている。
さらに、DJ CONAN、ソウルコミュニティラジオのメンバー、
その他のイベントクリエイターや音楽関連の人々が協会のリーダーとなっている。 "

-JULIAN QUINTART

LIVE STREAM TIME TABLE

RESTREAM CET 9:00PM - 1:00AM

2020. 06. 05. FRIDAY

KST	CET	EST	VURT	FAUST	VOLNOST
8PM	1PM	7AM	Koshin	Polarfront	Soseol
9PM	2PM	8AM	Inger	DAMIE	Soseol
10PM	3PM	9AM	Scope	Marcus L	ininin
11PM	4PM	10AM	Djlllogue	Suman	ininin

worldwide
stream at

vfvclub.live

2020. 06. 06. SATURDAY

KST	CET	EST	VURT	FAUST	VOLNOST
8PM	1PM	7AM	Unjin	Stan Lumo	DJ SIN
9PM	2PM	8AM	Cobahn	UNREALNUMBERS	DJ SIN
10PM	3PM	9AM	SUNA	Doolt	Salbaram w/ Mallo (Live Painting)
11PM	4PM	10AM	Xanexx	Hyenam	Jared Redmond, VPR & Eexppoann (Live)

04 ENVISIONING INCLUSIVE, EQUITABLE DANCEFLOOR

インクルーシブで公平なダンスフロアを実現するために ：TOOL：EQUALITY FRAMEWORK (平等のフレームワーク)

人種差別、性差別、ホモフォビア（同性愛嫌悪）、年齢差別、身体障害者差別、夜間労働者の不安定な状況などという既存の問題は、このパンデミックによってより悪化した。再考されるべき多くのことがある今、これらの問題に取り組むことは、ビジョンの達成に向けて回復を目指す一環なのである。回復とは、単に通常営業に戻るのではなく、より公平でインクルーシブな実践を伴うものでなければならない。

Equality Framework は、ベニユーのイベントチーム全体やスタッフが、現場のイベントスタッフからの洞察を得て、よりインクルーシブな実践を促進するために活用することが可能だ。これを継続的に実施することで、ベニユーの見識やコミュニティとの繋がりにポジティブな影響を与えることができ、結果として経済的支援を得ることができる。

以下では、プロモーター、ベニユー管理者、音楽団体がパンデミックの状況下でダンスフロアをより公平にするための Equality Framework を提案する。

インクルーシブで公平なダンスフロアを実現するために ：TOOL：EQUALITY FRAMEWORK (平等のフレームワーク)

	アーティスト	訪問者・利用者	スタッフ	ベニュー
スペース	各スペースは、 アーティスト間の 不平等問題をどの程度 増減させているのか？ ベニューをつくり、育て、 守っていくために アーティストには 何ができるのか？	各ベニューは訪問者や 利用者の間の不平等問題に どのように関わっているのか？	社員はベニューの現状 を把握しているか？	ベニューはコミュニティの 生活やコミュニティが 主導する場を守り 重要視されることを 目的とするキャンペーンに 参加しているか？ ベニューは、地方自治体や 民間セクターと連携し、 解決策を見つけるために、 どのようなプランニングツールを 活用することができるか？
衛生と規制	規制はアーティストに どの程度影響するのか？	現在の規制はどのように 人々を守り、公衆衛生を確保し、 オンラインとオフラインに おける「安全な空間」という 考え方を広めているのだろうか？	社員に思いつきの 研修をしていないか？	現在の管理方法は、 特定のコミュニティを 排除したり社会的障壁を 設けていないか？
アーティストの 活動	どのようなアーティストが ブッキングされているのか？ 地元アーティストや 新しいアーティストは 関与しているか？ 自治体は関与しているか？	来訪者は体験したことについて 会場にフィードバックできるか？ どのようにして平等と 多様性の戦略を立てるのか？	従業員のインクルージョン、 アクセス、平等を保証する ための行動をしているか？	現在の計画や方針は、 特権や不平等、 差別を助長していないか？

多くの都市では、「必要不可欠な活動」と位置付けられていないダンスフロアやクラブへの財政支援は、限定的または存在すらしない。不確実性と前例のないこの状況は、業界に厳しい試練を課している。完全なロックダウンに対応できるクラブなどほとんど存在しない。業界全体が、ソーシャルディスタンス規制や感染予防策への対応に苦慮しており、自治体や中央政府からの支援不足を受け入れられずにいる。

しかし、物理的にダンスフロアで時間を共有することが不可能となったことで、様々な実験に取り組み、アーティストやベニュー間のネットワークやコラボレーションを構築し、替わりに何ができるのか、多くの選択肢を開発することは可能である。

クラブが再開するのにあたり、私たちの所見と提言は以下の通りである。

1. クラブはすでに衛生管理、安全、予防策についての専門知識を持っており、これに関連する発言はよりポジティブにでき、また、そうあるべきである。
2. イベント業界は、危機に強い基盤を構築するための共通の実践として、「Lean Startup」方式(実験的なビジネス手法)を採用すべきである。自治体は、資金、トレーニング、能力開発を通じてこれを支援することができる。
3. データ収集とモニタリングは、課題と機会を特定し、対策を講じるための基本である。クリエイティブ・フットプリントのようなプロジェクトは、重要なベンチマークとして利用できる。
4. ネットワークや組織は、変化をもたらすことができる。アドボカシー活動、コミュニティの組織化、ロビー活動、地方自治体とのパートナーシップを通じて、短期的にも長期的にも変化をもたらすことができる。
nighttime.org のインタラクティブ・マップに、あなたの都市のナイトメイヤーやナイトコミッションが新たに加わることを期待する。
5. コミュニティには、強固な衛生・安全を担保するための実践的取組と、コミュニティが独自に定義する共有の社会契約が必要である。
6. クラブの活動における多様性を守るために、脆弱なコミュニティを支援すべきである。データを収集し、ネットワークを構築し、計画的に行動することが鍵となる。
7. 業界の専門家は、インクルージョンに対する障壁について、言及すべきである。Equality Framework は、社会的影響を反映し、よりインクルーブで公平なダンスフロアを構築するのに役立つ。

8. 長期的な資金援助は、文化活動に従事する労働者、オーガナイザー、アーティスト・コミュニティ、不動産を所有していないベニューを対象に行われるべきである。
9. クラブの公衆衛生対策や PPE の費用を賄うための資金援助も実施されるべきである。
10. バーチャルによるクラブ体験は、物理的な空間で得られる体験に取って代わることはできない。バーチャルは、「リアル」のダンスフロアで体験される本質的な要素が欠落しているが、コミュニティとしての体験を強化することはできる。
11. デジタルリテラシーとインクルージョンは、これまで以上に重要である。デジタル・コンテンツ、コミュニティ、実践が拡大し続ける中で、プライバシー、アクセシビリティ、所有権の問題に対処しなければならない。

パーティーやイベントをプロデュースするとき、それがバーチャルであってもライブであっても、私たちは皆、自分自身に問いかけなければならない。参加する人々の本当のニーズは何か？それは、実行可能で安全に対応できるか？もしそれが包括的に実現できなければ、非公式、アンダーグラウンド、自然発生的な集まり (Spontaneous gathering) が、今後も盛り上がりを見せていく可能性が高い。

先を見据えて動く...

我々は今この瞬間も、ベニューの閉鎖が世界中の地域や都市でコミュニティや文化的な空間を恒久的に失うことにつながりかねないという危険に直面している。地域的が、つながりが弱い、脆弱なコミュニティになるだけでなく、ナイトライフ・ツーリズムの減少は、他業種（ガストロノミー、ホテル、サプライチェーン）にも強烈な「波及効果」をもたらす。

しかし、都市はナイトライフのクリエイターやビジネスが、より幅広い都市開発の議論に、どのように参加するべきかを改めて考える機会を得ているとも言える。ナイトライフの専門家は、都市計画、24 時間体制での健全な都市管理、コミュニティの結束をサポートするためのオルタナティブスペースや非伝統的なスペースでの集いの創出、観光と地域の活性化を維持するための新たな顧客の定義を支援することなど、専門知識と独自の視点を持っている。他の都市とのパートナーシップや、ナイトライフ関係者のネットワークは、世界中の都市における文化やコミュニティ体験の重要性を再構築することができるだろう。

06 FURTHER READING

参考文献

algo:ritmi

<https://www.facebook.com/AlgoritmiTorino/>

Club Quarantine (@clubquarantine):

<https://www.papermag.com/club-quarantine-zoom-parties-2645599288.html>

Clubs in London

<https://www.dazeddigital.com/music/article/47200/1/a-list-of-clubs-in-the-uk-tha>

<https://www.dazeddigital.com/music/article/47200/1/a-list-of-clubs-in-the-uk-that-shut-down-in-the-2010s-because-flats>

Cheo Pardo' s #casaecho (@cheopardo):

<https://prodavinci.com/caracas-contenida-en-una-fiesta/>

Leipzig: University Medical Center Halle (Saale)' s Restart 19

<https://restart19.de/en/>

LGBTQ+ Cultural Infrastructure in London: Night Venues, 2006–present

https://www.ucl.ac.uk/urban-lab/sites/urban-lab/files/LGBTQ_cultural_infrastruct

https://www.ucl.ac.uk/urban-lab/sites/urban-lab/files/LGBTQ_cultural_infrastructure_in_London_nightlife_venues_2006_to_the_present.pdf

Manchester Rave Box

<https://djmag.com/news/socially-distanced-%E2%80%9Crave-box%E2%80%9D->

<https://djmag.com/news/socially-distanced-%25E2%2580%259Crave-box%25E2%2580%259D-series-taking-place-manchester-august>

NAACP – Missed Opportunities: A View of the Industry

<https://www.residentadvisor.net/features/3730>

NTE toilets & the needs of disabled customers

<https://www.bbc.co.uk/news/uk-wales-49556333>

NTIA survey in London Evening Standard

<https://www.standard.co.uk/go/london/bars/bars-and-clubs-fear-closure-in-face-of->

<https://www.standard.co.uk/go/london/bars/bars-and-clubs-fear-closure-in-face-of-new-restrictions-a4439486.html>

Open Club Day

<http://openclubday.com/>

Paradise City Festival

https://www.facebook.com/watch/live/?v=989309788194400&ref=watch_permalink

Printworks Drive-in

<https://printworkslondon.co.uk/event/the-luna-drive-in-pulp-fiction/>

Seoul Itaewon club district

<https://www.cbsnews.com/news/south-korea-coronavirus-cluster-linked-to-seoul->

<https://www.cbsnews.com/news/south-korea-coronavirus-cluster-linked-to-seoul-nightclubs-fueling-homophobia-fears-gay-men/>

The impact of COVID-19 on night-time economies, arts and culture

<https://blogs.ucl.ac.uk/dpublog/2020/06/30/the-impact-of-covid-19-on-night-time->

<https://blogs.ucl.ac.uk/dpublog/2020/06/30/the-impact-of-covid-19-on-night-time-economies-arts-and-culture/>

06 FURTHER READING

参考文献

Tokyo: Maki Tezuka on after-dark economies

www.timeout.com/tokyo/things-to-do/the-new-normal-interview-series-whats-next-

<https://www.timeout.com/tokyo/things-to-do/the-new-normal-interview-series-whats-next-for-kabukicho>

Uxr.zone

<https://hubs.mozilla.com/9PjxQPr/the-circle-uxr-zone>

Village Underground Cycle Park

www.villageunderground.co.uk/news/vu-cycle-park/

Virtual Communities not Social Networks

www.medium.com/@matthewdgannt/virtual-communities-not-social-networks-

90-minute Covid Test

<https://edition.cnn.com/2020/08/03/health/90-minute-covid-19-testing-gbr-intl/index.html>

RESOURCES & TOOLS

Better Music Cities Resilience Handbook

<https://www.sounddiplomacy.com/better-music-cities>

Black Sheep Restaurants COVID-19 Playbook (Hong Kong)

<https://blacksheeprestaurants.com/wp-content/uploads/2020/03/black-sheep-restaurants-sop-covid19.pdf>

Closecontact visitor registration tool (Berlin)

<https://closecontact.club/about.html>

Community Toolkit (Italy)

<https://www.communitytoolkit.it/en/home-english/>

COVID Nightlife Guide: A Light in the Night (NYC)

<https://www.covidnightlifeguide.com/>

The Creative Footprint

<https://www.creative-footprint.org/>

PESTLE

<https://www.youtube.com/watch?v=bYn4CyL3r5w>

Reclaim Your Club Fibel (Berlin)

<https://menschmeier.berlin/fibel.html>

Risk Model template/calculator (Belgium)

<https://www.covideventriskmodel.be/>

SWOT

<https://www.business.com/articles/swot-analysis-for-small-business-planning/>

VibeCare

<http://www.eventsure.be>

07 Project Team

CONTRIBUTERS

CHAPTER LEAD:



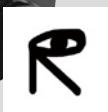
CL>>>
>>U>B
FU>>
TU>R>>O

University
Alliance
Digital Training Alliance

NOTTINGHAM
TRENT UNIVERSITY

Riccardo Ramello is a PhD researcher at Nottingham Trent University (NTU), exploring night-time areas and violence prevention as part of the DTA3/Cofund Marie Sklodowska-Curie PhD Fellowship Programme. He is also the founder of Club Futuro, which aims to explore and value the socio-cultural impact of music clubs in urban ecosystems. With the support from: Andromachi Tseloni (Professor, School of Social Sciences - NTU), Laura Garius (Senior Lecturer, School of Social Sciences - NTU), Benachir Medjdoub (Professor, School of Architecture, Design, and the Built Environment - NTU) and James Hunter (Principal Lecturer, School of Social Sciences - NTU).

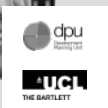
CONTRIBUTORS:



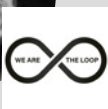
Lauren Goshinski is a curator and event producer who works at the intersection of music, performance, digital art and the moving image. Currently she is program director for PRTV, the streaming channel of Public Records NYC. Her work bridges vital underground spaces and high profile platforms, from night clubs (Hot Mass) to festivals (New Forms) and research institutes (Carnegie Mellon University). She is a member of International Cities of Advanced Sound, a global network of festivals dedicated to adventurous music and art, which include members such as Mutek, Unsound, Nyege Nyege and CTM Berlin.



Michael Kill is the CEO of Night Time Industries Association. This UK-based organisation aims to increase the awareness and understanding of the contribution and benefits of the night-time economy. It also seeks to influence the decisions of policymakers and ensure that the night time economy continues to flourish.



Alessio Kolioulis is a Teaching Fellow at The Bartlett Development Planning Unit (DPU) where he supports the activities of the MSc in Urban Economic Development. Alessio is a researcher and urban theorist with a Joint PhD in Urban Planning and Aesthetics (Paris 8/Rome La Sapienza) and a background in development economics and international cooperation. His doctoral thesis on night-time economies and the creative industries analysed the links between sonic ecologies, urban territories, and techno cultures in London and Detroit.



Professor Fiona Measham is founding Director of the Loop and the Loop Australia, non profit NGOs providing drug checking and associated harm reduction services in community, festival and nightlife settings. She is Chair in Criminology at the University of Liverpool, and an expert advisor to the UK Advisory Council on the Misuse of Drugs, DrugScience, the Labour Party and Conservative Party drug policy reform panels, and the Night Time Industry Association.

Maria Measham is the Research and Communications Officer for The Loop UK and a policy researcher with Release London.



Robbe Van Bogaert is the founder of EVENTSURE and co-founder of the creative factory MEATPACK in Antwerp, Belgium. He advises on nightlife for the city of Antwerp, is active as a DJ with HUMAN POWER and regularly travels as a VibeCare trainer and international speaker. policy researcher with Release London.

INTERVIEWEES:

Julian Quintart, venue owner, DJ, and event organiser, Seoul, South Korea

Karin Gavassa, VR Experience Strategist, VR Events Planner, Cultural manager & curator. Founder & Artistic Director of algo:ritmi, Turin, Italy

Katharine Khan, Village Underground, London, UK

07 Project Team

TEAM

Michael Fichman is a city planner, researcher and lecturer at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. He is also a nightlife organiser and musician, and is an Emerging City Champions fellowship recipient for his work with 24HrPHL.

Richard Foster is the PR Manager at WORM a Rotterdam-based alternative cultural centre and network organisation at the intersection of (popular) culture and (performing) arts. His writing appears regularly in The Quietus, The Wire, Louder than War, and other music publications.

Berlin Clubcommissioner **Lutz Leichsenring** + former Amsterdam night mayor **Mirik Milan** are co-founders of VibeLab, which engages, connects, and counsels cross-sector stakeholders to keep cities vibrant and flourishing after dark. VibeLab has consulted on the formation of nightlife offices and commissions in London, Madrid, New York, Tokyo, Vienna, Los Angeles, and more, and continues to facilitate idea exchange and implementation for communities, institutions, government agencies and brands worldwide.

Diana Raiselis is a German Chancellor Fellow with the Alexander von Humboldt Foundation, researching the role of nightlife in sustainable cities. She is a founding member of the Los Angeles Nightlife Alliance.

Andreina Seijas is a Venezuelan researcher and international consultant in nocturnal governance and planning. She is currently a Teaching Fellow, Research Fellow and Doctoral Candidate at the Harvard University Graduate School of Design.

Jia Yuan is a Summer Design Fellow at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. She is also an urban planner and researcher focusing on sustainable transportation planning and data-driven planning.

発行団体



ナイトタイムエコノミー推進協議会

JNEA は、夜間経済の活性化を観光・文化・街づくりの重要テーマと捉え、政府・自治体・DMO・民間企業 間の連携やプロジェクト支援を行うために 2019 年に設立した組織です。JNEA では、夜間経済にとどまらず 日本の観光産業の発展につながる様々なコンテンツ、また新しい文化の創出の可能性など幅広い視野に立ち、活動を行っています。

代表理事：齋藤 貴弘（Field-R 法律事務所弁護士）

理事：梅澤 高明（AT. カーニー日本法人会長 | CIC Japan 会長）、永谷 亜矢子（株式会社 an 代表取締役 | 立教大学経営学部客員教授）

Project Team Members : Shizuko Yokote, Kana Ito

協力

NEWSKOOL

合同会社 NEWSKOOL

NEWSKOOL は、ナイトタイムを起点として様々な分野の課題に解決策を提供するコンサルティング会社です。新しい考え方をもったクリエイティブコミュニティと、蓄積された知見を武器に、今までにない体験や持続可能な経済圏を設計しています。

私たちは、これからのまちづくりの中核を担っていく若者自身でもあることを強みとしています。実際のターゲットと同じ目線で施策を評価したりアイデアを生み出したりすることができます。

私たちの最終目標は、人々が自分にあった生き方を選べる社会プラットフォームをつくること。様々なプロジェクトから得た経験と専門家としての知見を活用し、企業・行政・クリエイティブ人材・消費者を巻き込むナイトデザインを推進していきます。

Project Team Members : Yoshihito Kamada, Kenta Hiroishi, Kai Kojima, Haruna Watanabe

SPECIAL THANKS!!

Azumi Kawai

Junpei Yamaguchi